

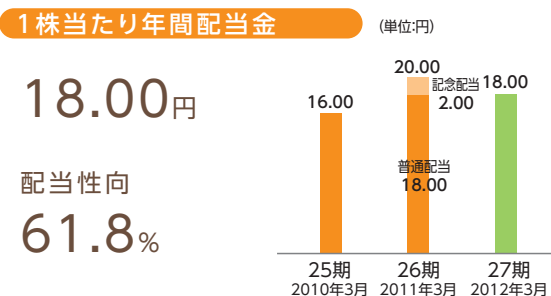
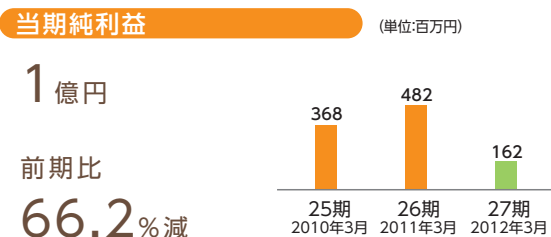
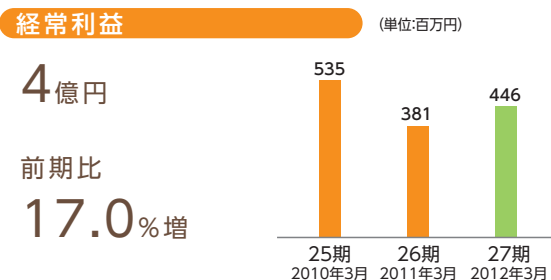
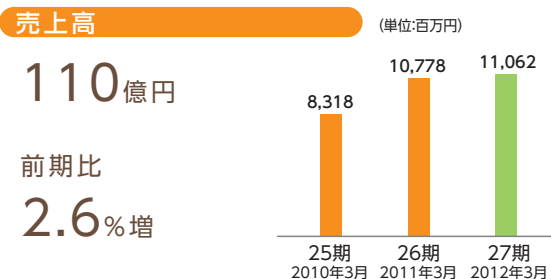
今も手作りを 守り続けている オレンジキャップは 品質の証。



創業者の村田が開発したピエトロドレッシングは、レストラン1号店のオープン当時、パスタが茹であがるまでの間に出していたサラダにかけていたものでした。常連のお客様からのご自宅でも使いたいというお求めに応じて、当初はワインの空き瓶などに入れておわけしていました。しかしながら、それでは失礼ということで、市販のボトルに入れて販売するようになりました。当時、ドレッシングといえば酸味のきいたものが主流だった時代に、醤油ベースの絶妙な味わいの評判がクチコミで広がっていきました。「女性の客室乗務員さんが福岡(博多)土産に買って帰る」という現象まで生まれるようになりました。そして、いつしかオリジナル容器のオレンジ色のキャップが、ピエトロドレッシングの代名詞となりました。



財務ハイライト



株主の皆様へ

株主の皆様におかれましては、格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。ここに当社2012年3月期の事業の概況についてご報告申し上げます。

●事業の概況

当連結会計年度におけるわが国経済は、復興需要の顕在化などを背景に回復基調にあるものの、長引く円高や海外経済の減速などにより厳しい状況で推移いたしました。

食品業界及び外食業界におきましては、雇用・所得環境や消費マインドの緩やかな改善がみられるものの、引き続き消費者の低価格志向や節約志向が強まっております。

このような状況のもと、当社グループは、ブランド戦略を堅持しながら、付加価値の高い商品やサービスのご提供に取り組んでまいりました。

当連結会計年度の売上高は、食品事業におけるドレッシング商品やパスタ関連商品が好調に推移したことなどから、110億62百万円(前期比2.6%増)となりました。

利益面では、食品事業の売上増を主因として売上総利益が増加するとともに、テレビコマーシャルの放映など広告宣伝費の効率的な投入などにより、営業利益は4億46百万円(前期比9.8%増)、経常利益は4億46百万円(前期比17.0%増)、当期純利益は1億62百万円(前期比66.2%減)となりました。なお、前期の当期純利益には、連結子会社の解散に伴う税効果の影響として、3億1百万円の特異要因が含まれております。



代表取締役社長

村田 邦彦

●今後の見通し

2013年3月期の経営環境につきましては、海外需要の低迷や原油価格の高止まりなどにより、厳しい状況が続くものと思われまます。

このような状況のもと、当社グループにおきましては、「おいしさと健康」を意識した高付加価値商品の開発に努め、主力のドレッシングやパスタ関連商品などの拡販を行ってまいります。また、通信販売事業では、ネット関連の販促を強化し、新しい顧客層の開拓を行ってまいります。レストラン事業におきましては、新メニューのご提供など、さらなるサービスの強化を図ってまいります。

以上のことから、売上高は、113億円(前期比2.1%増)を予想しております。

営業利益につきましては、食品事業の売上増加に伴う増益に加え、コスト見直しによるレストラン事業の利益改善を見込んでおります。しかしながら、原材料価格の上昇によるコスト負担増もあり、営業利益は4億60百万円(前期比3.0%増)、経常利益は4億50百万円(前期比0.8%増)、当期純利益は1億80百万円(前期比10.6%増)を予想しております。